

## 2018 年度前期「学生による授業評価」に関する検討会

# 報告書

### 学科科目以外の科目

#### 目次

総合教養科目運営委員会	p.1
総合教養科目<女性のウェルネス領域>担当者会	p.2
キリスト教学科目運営委員会	p.4
第一外国語運営委員会	p.6
第二外国語運営委員会	p.17
日本語科目運営委員会	p.19
情報処理教育運営委員会	p.21
教職課程運営委員会	p.23
学芸員課程運営委員会	p.25
女性学研究所(女性学・ジェンダー科目)	p.26

2019年4月

東京女子大学 FD 委員会

# 「2018年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2018年10月30日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等：	総合教養科目運営委員会
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者：	光延 真哉
検討会実施日	2018年10月24日
出席者数	5名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答） 学生・WEB 開示

「毎回まじめに出席している学生に対して出席を評価しないことはおかしい」

本学での「平常点」は「出席点」（単に教室にいただけでつく点数）ではありません。授業で出される課題等への取り組み具合が「平常点」になります。学生の皆さんに誤解のないよう、周知に努めたいと思います。

「小テスト、レポートがあるのに、期末テストもあるのは多すぎではないか」

一方では、「定期的にまとめの宿題が出たことで、該当テーマについての理解を深めることが出来た」という声もあります。シラバスには予習や復習の目安の時間が記されていますが、単位は教室の外での学びも含めて認定されています。課題への取り組みを通じて、自ら積極的に学ぶ姿勢を身につけてもらうことを期待します。

「学生がうるさいので注意をこまめにしてほしい」

教員もこの問題に苦慮し、「受講の注意」をプリントにして配布する、私語をしている学生に名前を尋ねるなど、それぞれが様々な対策を行なっていますが、もっとも大切なのは学生の皆さんひとりひとりの倫理観です。そうした根本的なところでの改善の方策を模索したいと思います。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

- ・コメントシートに質問事項を書いてもらい、翌週フィードバックを行なうなどして、履修者の理解の程度をはかりながら、適切なレベルで授業が展開できるようにしていきたいと思います。
- ・大人数の授業であってもマイクを回して発言してもらおうなどして、授業への積極的な参加を促したいと思います。
- ・ミニレポートやミニテストを課すことで、学習意欲を維持していきたいと思います。

# 「2018年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2018年10月31日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等：	総合教養科目 女性のウェルネス領域
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者：	曾我 芳枝
検討会実施日	2018年10月24日
出席者数	14名（内、非常勤講師11名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答） 学生・WEB 開示

### （1）必修授業について

自由記述のコメントにつきましては、積極的に授業に取り組む肯定的な意見が大変多く見られました。

例えば、「運動ができるかできないかではなく、運動することの楽しさを学ぶことができてよかった。」「実際にトレーニングを行うことで、身をもって運動の重要性を学ぶことができた。」「大学生になって運動する機会が減ったのでこの授業の存在自体があってよかった。」「ニュースポーツについて今まで知らなかったスポーツを知ることができてよかった。」など、「楽しい」という意見が多くあり、学生たちはスポーツを楽しく捉えて生涯スポーツに発展していくように感じます。

要望と回答は次に述べます。

- ・Aアリーナでの声が反響して聞きづらい。これは、以前から出されていた意見ですが改善されていません。今後改善を検討するよう働きかけていきます。
- ・ダイエットできるエクササイズをたくさんやってほしい。健康的なダイエットについてこれまでも取り入れてきましたが、正しいダイエットの理論と実践について、各自が日常生活で実践できるよう指導していきます。
- ・普段できないマイナースポーツをやりたい。ノルディックウォーキングのポールを取り入れようと考えています。
- ・一つの種目をもう少し長く行いたかった。必修授業は導入なので短期間で終了する種目が多いのですが2年次以上に専門のコースが設けてありますので、ぜひ受講してください。
- ・外の授業の時はもう少し早めに終わらせてほしい。更衣の時間を配慮します。
- ・説明の声が小さくルールがわからずプレーしたこともあった。外の授業は聞こえにくい時もあるので、なるべく大きな声で説明しますが、わからないときは、積極的に質問してください。

### （2）選択講義について

学生の自由記述によりますと「女性に関しての問題を中心にスポーツ、自身の身体について考えていく機会となり良かった。」「身体に関することを沢山知ることができて良かった。新しい視点も得ることができたので、とても満足しています。ありがとうございました。」「朝から楽しい授業と先生の元気な声で元気が出ました！ありがとうございました。」などの肯定的な意見が多く、選択講義は満足度の高い授業であったと思います。

「冷房が効きすぎている」という要望につきましては、学生の皆さんから申し出てもらい対応していきます。

### (3) 選択実習について

授業評価アンケートの集計結果によりますと、ほぼ 100%の学生が、満足していることがわかりました。特に「スポーツB(バドミントン)」の授業では「授業の中で最も充実している授業だと思いました」という感想がありました。他の「スポーツD(ゴルフ)」の授業では、「0から丁寧に指導していただき、とても自分の身についたと感じました。楽しかったです！ありがとうございます。」「前々からゴルフに興味があった中で受講し、さらに興味を持ちました。前期が終了しても、個人的にゴルフを始めたいと思います。」などという意見があり、生涯スポーツにつなぐことができる授業になったと思います。その他の授業も充実していてとても楽しかったという意見がほとんどでした。

要望は特にありませんでした。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

### 全体

- ・新しいトレーニングシステムを導入し、これまで以上に各自の身体について理解し、その変化も継続的にわかりやすいものにしていきます。
- ・グラウンドの整備をし、クライミングボード周りの環境を良くしました。

### (1) 必修授業について

- ・授業の中で、スポーツや運動が苦手な学生でもできる教材を工夫し、日常生活にも取り入れることができる運動を指導していきます。
- ・学生同士がコミュニケーションをとるような場面を意識的につくるよう工夫していきます。
- ・前期の授業の場合、特に今年は暑さが厳しく、学生の運動意欲が低下しがちでしたので、運動種目の変更をしたり、理論を学ぶ時間に変更したりしました。授業の特性を考慮し、臨機応変に対応していきます。

### (2) 選択授業について

教室外学習の実施割合が増えたのは、毎回の授業で、その内容に関連する文献や読み物・時事問題等の紹介をしたり、コメントペーパーで受けた質問を次の回に学生たちに紹介したりしたことが功を奏したと考えられます。今後も継続していきます。

### (3) 選択実習について

教室外学習の「週2時間以上」の実施者の増加は、東京で行われる国際大会や、国内大会の観戦を促したこと、運動について図入りのプリントを配布したり、参考文献の紹介をしたりしたことが学習効果を高め、教室外学習を促したと考えられます。

# 「2018年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2018年10月31日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等： キリスト教学科目運営委員会  
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者： 遠藤 勝信  
検討会実施日 2018年10月31日  
出席者数 3名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答） 学生・WEB 開示

- ・アンケート裏のコメントは、「楽しかった」、「分かりやすかった」というコメントが圧倒的に多かったため、これからも学生たちが積極的に授業に取り組めるように、パワーポイントや映像やプリントを用いて、分かりやすさを心がけていきたいと思えます。
- ・毎回予習シートを配布し、自分なりに考察を深めるよう促しました。これにより教室外学習が容易になったと答えた学生がいる反面、考察よりも正解を知りたいという意見もありました。教師としては安易に正解を求めるよりも、自分で考察を深めて欲しいと思っています。
- ・毎回の授業で、コメントを書く時間をもっと欲しいとの要望があったので後期には改善します。
- ・他の学生のコメント内容を紹介して欲しいとの要望もありましたが、つとめて何人かのコメントを毎回紹介するつもりです。
- ・普段取り組んでいるコメントシートに対する評価が知りたいとの要望もありました。キリスト教学のクラスは履修者が多いためコメントシートをお返しすることは出来ませんが、オフィスアワーの時間等に是非研究室を訪ねてご自分の評価を確認してください。
- ・時々マイクの音量が小さくなる時があるとの指摘がありました。ワイヤレスマイクの充電状況や音響機器の具合等も関係していますので逐次気をつけたいと思えます。
- ・信者でない学生がキリスト教を必修で学ぶ必要はないのでは、との意見が一人の学生から出ていました。このクラスが必修であるのは、本学が創立時から重んじてきた建学の精神、キリスト教精神を土台とした人格教育の意義を理解して頂くという大切な目的があるからです。グローバル社会においてひとりひとりが知の架け橋となって頂くためにも、それは欠かせない学びだと考えています。もう少し説明が必要である場合、どうぞいつでも相談に来てください。
- ・キリスト教学IIのクラスは、自由選択となっているため、満足度はキリスト教学Iよりも高く、自由記述欄にも肯定的な意見が多く見られました。
- ・キリスト教のもっと根本的なことから教えて欲しかったとの意見がありました。前期の学びは、建学の精神をはじめ、旧約聖書の歴史が中心になりますから、そう感じられたと思えます。その学生が知りたい内容は、新約聖書、つまりイエス・キリストの教えを繙く後期に取り上げられますからどうぞ楽しみにしててください。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

- ・毎年教室外学習の時間の短さが問題となっていますが、キリスト教学IIの授業で、自学レポートという課題を課したことは、教室外学習の時間を増やすことにやや効果があったと思われます。自学レポートとは、学期末レポートとは別に、毎週の授業毎に、その授業で取り扱った内容で、もう少し詳しく知りたい事柄を毎週自分で調べて、書かためていくという課題です。教室外学習の時間を増やす

ためにこれからも自学レポートを課題に加えていきたいと思います。

・人数が多いクラスの場合は資料配布やコメントシートの配布に時間がかかるため、今後工夫が必要だと感じました。

・キリスト教学(特にⅡ、Ⅲ)のクラスでは、大学生に相応しい内容のものを伝えたいとの願いが教員のうちにありますが、学生によってはもっと基礎的なことを知りたいとの願いもあるようです。コメントシートに記される学生たちの応答や理解度を確認しながら、よりバランスの取れた授業運営を心がけていきたいと思います。

# 「2018年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2018年10月29日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等： 第一外国語運営委員会  
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者： 森 博英  
検討会実施日 2018年9月26日～10月5日  
出席者数 33名（内、非常勤講師28名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB開示](#)

### 1. 【学生からのコメント】

- ・先生の授業は分かりやすく、生徒のことを考えて授業が展開されたので良かった。
- ・先生が独自に運営して下さる Media discussion がとても良かったです。
- ・生徒のことを考えてカリキュラムを組んでくださって、とても有意義な授業で、ありがとうございます。
- ・テキストのリスニング問題に解答を付けて欲しいです。
- ・ゆっくり話して頂いたので、指示など聞き取りやすかったです。
- ・メディアレポートを書くために、海外のニュースにも注意を払うようになりました。自国以外のことにも興味を持つようになりました。

#### 【学生へのフィードバック】

- ・I'm glad most of the students who wrote a comment find the course rewarding.

### 2. 【学生からのコメント】

- ・I didn't like English before class. But I enjoy TOEIC class. I try Listen NHK English class.
- ・Thank you for the lesson. I think I have more confident now and I may go sing-up for a TOEIC test in this year.
- ・イディオムや単語にもう少しふれて欲しかった。

#### 【学生へのフィードバック】

- ・I found the students' comments very useful.

### 3. 【学生からのコメント】

- ・I really enjoyed your class. It was good for students to be given enough time to ask questions.
- ・結構楽しかったです。
- ・先生がイケメンだったのでとても向上心につながりました。これからもこのペースで授業を進めてもらいたいです。

#### 【学生へのフィードバック】

- ・At my age the above comment was particularly heartening!

### 4. 【学生からのコメント】

- ・1番受講してよかった授業だと思っている。英語力だけでなく人前で話す力や度胸が身に付いた。

- ・ I wrote the first and second speech draft as the example my teacher had gave us, but she said my draft was too short. Therefore, I wanted her to give us good example.
- ・ This was the best chance to check foreign news on BBC news. And my speaking skill improved a lot through this class. I really enjoyed it! Thank you for everything.
- ・ Most of the students speak very well, but I am not good at speaking English . The class is high-level for me. However, I can practice speaking English a lot. I 'm satisfied with taking this class.

**【学生へのフィードバック】**

- ・ I was very pleased with the survey as in all areas the results were above average.

**5. 【学生からのコメント】**

- ・ Fun class!
- ・ In the quiz 's listening, your speaking speed is so fast for us.
- ・ Your class is very interesting. I could enjoy it.

**【学生へのフィードバック】**

- ・ My feedback comments were positive and encouraging. One student did comment on her difficulty with a listening activity. I think this is a comment which could have come from many of my students taking CS this year. Listening activities are normally challenging for students and this year they do not have DS (plus the listening component). As a consequence, their exposure to spoken English may be lower.

**6. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】**

- ・ 文章のパラグラフごとに内容を説明し論理展開を分析している点を評価していただけてよかったですと思います。
- ・ 声が小さくて聞き取りにくい時があるというご指摘があり、気をつけていきたいと思います。

**7. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】**

- ・ 英文解釈について「いきなり問題に入るのではなく、本文を訳してから問題に入ってほしい。」「理解しにくそうな文の文法解説があると嬉しいです。」とのコメントがありました。時間制約等もあり、すべてを翻訳するのは難しいですが、いくつかパラグラフを選んで翻訳をするなど「英文解釈」の時間を後期は設けたいと思います。
- ・ 答え合わせの方法について「教科書の文法を解く際に、解答を発表するだけだったため、正しい解答が何か分からなかったり、英語が聞きとれなかったりしたので、解答を紙で用意するか、スライドで画面にうつしてほしい。」「答えが聞きとれないことがある(生徒の声)ので、答えを繰り返してもらえるとより良いと思う。」というコメントをいただきました。極力文法解説の時間も増やしながら、スライドも活用していきたいと思います。
- ・ 進行について「前期でたまに1つの文章が途中になって次に持ちこしが多かったので、なるべく一回の授業で完結できたらいいなと思いました。」「進むが少し速い気がします。」「宿題の量少々多くて他の教科との兼ねあいに困っています。もう少しだけ減らしていただけたらなと思いました。



良い授業でした。ありがとうございました。」、「宿題が多くて大変だった。」とのコメントがありました。極力1回のクラスで完結できるようにしたいと思います。また、教科書の分量も非常に多いので、すべてを終えようとするのではなく、内容理解重視で進捗も再度検討し直したいと思います

- ・教科書について「もう少し難しい教科書の方が、読解力はあがるかなと感じた。」、「教科書がもう少し難しい方が負荷がかかって英語の力が伸びるかなという気がした。」とのコメントをいただきました。今回は、一緒に組まれる先生のご意向で、一番高いレベルのクラスで易しい教科書を使うという状況になりました。教科書はやはりクラス進行において重要なため、次回以降、教科書を決める折には、一緒に組む先生とその点も含めて協議が必要と思います。

- ・グループワークについて「グループワークする事で自分と異なる考えや、読み間違っていた所など新たな発見も多く、良かった。」、「グループワークを行うことによって自分以外の人の答えの導き出し方を知ることができた。また、先生からの一方的な授業ではなく、学生が、気軽に発言しやすい授業で、クラス全体の雰囲気もとても良かったと思う。」、「シャドーウィングがとても良かったので、後期も続けてやりたいです。またグループワークも友達がどう考えたかが知れるし、自分もどう考えたか再確認でき、その考え方が適切だったか分かったので良かったです。」、「グループワークの時間は他の人たちの様々な意見や考えを聞くことができたので良かった。」、「グループになってそれぞれのトピックでの意見交換をしたり、より正確な答えを出すために相談したことが、自分の意見を正しく相手に伝えたり、人の話に関して内容を掘り下げたり一緒に考える練習になり良かった。」、「グループワークが多く、かつあまり話したことのない子と一緒にすることも多かったので、様々なコミュニケーションがとれたことと共に、楽しく英語を学ぶことができて良かった。先生の体験などもたくさん話してくださって、想像力がかきたてられた。」、「教科の内容から発展させて、Critical thinking やグループワークをしてくれたのがすごく良かったです。外国の大学の写真や TED を見せてもらい、海外にも興味がわきました。」、「参加型の授業体型だったので意欲的に受けることができた。」とのポジティブな意見が多数あったため(ネガティブ意見なし) 後期以降も継続します。

## 8. 【学生からのコメント】

- ・非常によかったです。ReedingReport で教えてくれた resource が役に立ってます。
- ・授業予習プリントが非常に使いやすかったです。また、Reading レポートの課題も習慣的に英語に触れることができました。
- ・楽しい授業で、苦ではなかったです。予習用のプリントがとても良かったですし、授業中の小話も面白くて、全体的に充実した90分間でした。

### 【学生へのフィードバック】

- ・今年度より作成した予習すべき点を具体的に示したプリントは、予習がしやすいと学生に好評でしたので、今後も続けたいと思います。
- ・リーディングレポートは今年度より、紙の本に加えて気軽にアクセスできる多読サイトをいくつか紹介したところ、気軽に読めると好評でしたので、今後も同様の方式で続けていきたいと思います。

## 9. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

- ・IELTS がどのようなテストか知ることができてよかった、授業が楽しかった、講師の留学時の話が刺激になったという意見が多くあり、嬉しく思いました。
- ・回数に対して学ぶべきことが多かったため、Reading に関しては Reading のクラスでスキルを学べ

ると考え、細かいスキルの説明はいたしませんでした。しかし、その点が不満であったという指摘があったため、今後はその点を改善いたします。

10. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

「多読の評価は冊数ではなくて、単語数で決まりを作って欲しかった。」とのコメントがありました。前期は多読への導入だったので、分かり易いように、picture book は0.5点、Chapter book は1.0のようにして、一冊を読み切ることを目指しました。後期は総単語数による基準を作りました。ただ単語数がわからない本も多いので、その場合はページ数を書くように指導しました。

11. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

「せっかく大学にきたのにあまりレベルの高い内容ではなかった。読むだけなら自分でもできるから、もう少し工夫された授業をうけたい。」とのコメントが1件寄せられました。今後の対策としては、適宜、レベルが高めの教材を取り入れるなど考えていきたいと思います。

12 【学生からのコメント】

- ・先生の声がききとりやすくて良かった。わかりやすかった。
- ・もう少し興味の出るような展開であれば良いと思います。他は全てよかったです。授業の進度など。
- ・小テストや課題が多い。
- ・進捗がかなりはやかったように感じます。

【学生へのフィードバック】

授業の進度について、速いというご意見と良いというご意見と両方寄せられました。理解度をはかりながら進めていますが、感じ方に差があるということが明らかになり、後期の授業では、さらに留意して進めたいと思います。興味が出る展開という部分におきましては、教科書外の教材を取り入れるなどして、工夫を凝らします。小テストと課題の量につきましては、小テストはUnitごと、多読の課題は月ごとと期末レポートとして課していますが、全体の様子をみながら、進めていきます。寄せられたコメントを真摯に受け止め、今後の授業運営に大いに活かしていきたいと思います。

13. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

・本文は先生に説明してほしいというコメントがありましたので、今期から chapter の予習に入る前に、ここはよく考えてきてほしいという項目を20問くらい印刷し、それに沿って予習をしてもらうことにしました。予習プリントがあれば具体的な予習ポイントがわかり、その結果、「わかりません」「……」が減るのではと考えました。これまでは、学生の答を待つ時間が長くなって授業の最後が駆け足になることもあり、学生から時間配分を工夫してほしいとありましたので、予習プリントの配布が解決の一助になればと考えています。

・学生から、ほかの授業と比べてこの授業の予習に時間がかかるというコメントがありましたので、負担を減らす工夫をしてみました。例えば、毎週、その週に読んだニュースの中から興味を持ったものを一つ選び、簡潔に書いてもらっていましたが、毎週、授業開始時に、あらかじめ指名した4名に口頭で発表してもらう（一人1,2分程度。学期に2度）ことにしました。また、ブックレポートに関しては、前期は月に1回（合計3回）一冊以上について英語で簡単なレポートを書く（指定用紙あり）としていましたが、後期はレポートよりも、より多くの本を読むことを目標にしました。ブックレポ

ートは12月の最終授業日に1回提出として、そのかわり、後期に読んだ本すべてについてタイトルや難易度などを簡単に記入し、そこから一冊選んで自由にコメントしてもらうことにしました。

#### 14. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

・「説明がわかりやすい。」とのコメントがありました。日本語で要所を確認することが、大事な箇所の特定に効果的だったように思われます。

・「自分のペースで多読本を読めることがありがたかったです。」とのコメントをいただきました。一人一人の生活の中で、自主的な習慣として多読が継続していけると良いと思います。これからもがんばりましょう。

#### 15. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

「質問がしやすかったのは良かった。」というコメントをいただきました。毎回授業終了直後に質問など何でも直接たずねてください、という呼び掛けをしてきましたが、その時の対面でのやり取りで、お互いに距離感が近くなったと思います。

#### 16. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

「英語を勉強する習慣がついた」「わかりやすい授業だった」の記述がある一方「次週の課題を具体的に教えて欲しい」の記述があり、個人差があるようです。「来週は何々をするので予習をしっかりとってくるように」など授業の終わりに一言言い添えるよう心がけます。

#### 17. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

・「本文について丁寧に解説してくれたので復習しやすかった」とのコメントがありました。いつも心がけていることなので、今後も継続していきたいと思います。

・「英語のボキャブラリーが増えた気がするので良かった」というコメントを受けて、丁寧に授業を行った成果が出たと思うと嬉しく感じています。

・「リスニングの力をもっとつけたかった」とのコメントもありました。リーディングの授業ということもあり、英文読解に力をいれましたが、できる限り学生の要望に応えられるよう、今後の参考にさせてもらいます。

・「多読用の読本について、自分にあった本の見つけ方がわからなかった」とのことですが、まずは興味のある本を手に取り、数を読みこなすことで自分にあった本を探してみてください。難易度としては、1ページに知らない単語が2、3個あるものを選ぶと、多読学習に効果的かと思います。冊数を重ねるごとに難易度を上げていくこともお勧めします。

#### 18. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

・設問の解答を伝える際に、どのように解答が導き出されるのか、理由を説明したことについて、わかりやすかったとのコメントをいただきました。今後も継続したいと思います。

・毎回、自習の予習箇所を確認したことも、良かったとのコメントをいただきました。シラバスに書いてはいますが、確認のため、また、予習に意識して取り組むよう促すためにも、今後も継続したいと思います。

#### 19. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

全体的には楽しく勉強できたというような肯定的なフィードバックが多く安心しました。

## 20.【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

Discussion の時間がなく教員の説明で終わったとのコメントがありました。計画通りに進めることにこだわることなく学生に任せる余裕が必要だと反省しました。

## 21.【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

・「グループでの話し合いを通して理解や関心が深まった」、「文章理解の解説を細かくしてほしい」、「教科書が昨年より難しい」といったコメントがありました。前期に引き続き、後期も授業内でグループワークを中心に進めていきます。特に、新たに取り入れるアカデミックリーディングサークル (ARC) では、時間をかけて文章を様々角度から読み解き、ディスカッションを通して理解を深めますが、適宜、教員からの文章やストラテジーの解説も入れ、難しい箇所に対応する予定です。

・「課題の量が多い」、「Quizlet の使い方がわからないまま終わった。クイズ状況シートがあると良い」、「単語テストがよかった」、「多読は皆正直に報告していない」とのコメントもありました。前期は、授業外学習を継続させるため、教科書からの宿題の他、Issue Log (新聞記事の検索・要約など)、多読、Quizlet (オンライン単語学習) を課しましたが、後期は、ARC の準備時間を確保するため、Graded Readers の紙媒体記録の代わりに、Issue Log を多読とみなします。また、単語学習については、Quizlet の学習状況ではなく、単語テストで評価します。課題が多くなる週は、授業内で教科書の問題を解く時間を作りたいと思います。

## 22.【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

・「解説等、初歩的なものからふり返って丁寧に教えてくださって、とてもわかりやすくて良かった。」「月 2 冊の多読は正直キツかった。レベルを下げるのはためらわれたので、毎月辛かった。」とのコメントをいただきました。授業がわかりやすかったとのことで、良かったと思います。多読については、ほとんどの学生が、こちらの期待以上に一生懸命取り組んでくれました。後期も続けていますが、「辛いと感じたら、レベルを下げて構わない」と伝えていきます。

・「先生の説明が分かりやすく、初めに、新聞記事を読む時間もあって、skill が少しは上がったと感じました。TOEIC のテストも単語を学習することができたのでやって良かったと思いました。」とのコメントもありました。テキストだけでなく、オーセンティックな英語にも触れてほしいと思い、授業のはじめの時間を使って、短い新聞記事を読みました。前期は、日本人に馴染みのある記事が多い、朝日新聞と読売新聞の英語記事を読みました。後期は、少し難易度をあげて、日本の新聞だけでなく、イギリス・アメリカの新聞からの記事も読もうと思っています。大学でご用意くださっている TOEFL の単語学習用 e-learning(きわめたん)を活用し、毎週確認の小テストを行いました。(e-learning の準備ができてからです。)単語力をつけるには、地道な学習が必要なので、授業がペースメーカーになれば良いと考えています。後期も続けます。

・「私語の注意をしてほしい。」とのコメントがありました。全体に元気の良いクラスで、たしかに私語もありました。ただ、授業の内容に関わることを話していることも多く(内容を確認し合う、意見を出し合う、など)、注意することで活気がなくなる可能性もありましたので、様子を見ておりました。静かに授業を受けたい学生にとっては、気になったらうと思いますので、その都度、様子を見て声かけしていきたいと思います。

・「パラグラフごとにグループで訳すと他のパラグラフの訳が分からないと思った。」との指摘もありました。テキストの本文がそれほど難しくないのに長く、すべてを全員で確認するのは時間的に無理がありました。そこで、グループに分かれて、パラグラフごとに内容をまとめて発表してもらうようにしましたが、その際に、「予習前提で割振りをします。読んでこない、担当しなかったところは、ぼんやり聞いているだけになってしまいますから、必ず予習して、分からないところは質問できるように」と声かけしておりました。今一度、予習が前提であることを確認したいと思います。

#### 23. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

多読がとても楽しく、読解力も向上したという学生のコメントが多数あり、高校時代とは違う英語の授業の楽しさを感じているようで、嬉しく感じました。今後とも多読活動を継続指導していきたいと思います。

#### 24. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

・「文法の小テストが、取り組み難かった。」とのコメントがありました。後期は知識面ではなく、ライティングを取り入れて言語使用も評価対象に入れていきたいです。

・「解答を Web-class に上げてもらえたのが助かった。」とのコメントを受け取りました。解答を教室内で配布してしまうと、問題を解く前に見てしまいたくなくなってしまうため、復習時に授業終了後にアップしました。

・「Reading という授業名だが、Communication や Discussion など英語を使用する機会が多かったのが良かった。」とのことでした。Reading から逸脱しない範囲で技能統合を考えながら授業展開しました。

・「配布プリントが多い。」とのコメントがありました。教科書に書き込むスペースが無いところを抜粋して配布していました。後期は冊子にしたので、混乱せずに済むと思われます。

・「授業が面白いので、各 Unit をもっと時間をかけて学びたい。」とのご指摘がありました。知識面を問う少テストを後期は定期試験時に入れることで、授業時間がさらに多く取れますので、活動時間が取り易くなると考えられます。

#### 25. 【学生からのコメントと学生へのフィードバック】

・楽しく、明るく、丁寧に」をモットーに授業を進めてきたが、それを学生たちが好意的に評価してくれたので安堵しました。ブックレポートや単語テストは学生にとっては少々負担があるものですが、「読解力の向上」や「復習の機会となった」というコメント（複数）に見られる通り、最終的には力がついたと実感した学生がいたこともうれしく思います。また、「英語が出来ないことを堂々と見せながら勉強できたのでよかった。」「気軽に質問できるのがありがたかった。」等のコメントより、“Don't be afraid of making mistakes.” と何度も伝えてきたメッセージが浸透したこともわかり、よかったと思います。

・早口にならないように心がけていますが、時々「スラスラと言ってしまう」という指摘があったので、後期は気をつけたいです。

#### 26. 【各リーディングマテリアルをじっくりと取り組んでくれるのでうれしいという学生がいる一方で、進み方が遅いのを不満に思っている学生もいました。両者の兼ね合いをどうとるのが今後の課題

だと思いました。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

1. I devote part of each class to an exercise called 'media reports' in which one student in each group is responsible for presenting a report to her group on something she'd found in English-media that week. The reports are written, and I collect them, but their purpose is to generate student group discussions about topics of the student's own choosing.
2. With my communication skills classes this year I have used much the same approach (with some refinement) I used last year as I felt it worked well. I do give the student quite a bit of homework as I find this allows us more time for spoken communicative activities in the classroom. At the start of class homework is checked and I use quizzes to reinforce and evaluate learning. I adapt listening and grammar activities so students can use pair and groupwork in fun ways. Keeping the students interested and having them up on their feet and moving around seems to help keep them engaged and active. When students speak in front of the whole class I find it helpful if they have the support of a partner or group, and have adequate time for preparation and practice. In this way students can build their confidence in a safe learning environment.
3. 説明にかける時間が多く、話が一方的になってしまうので、なるべく意見を出し合う時間を設けていきたいです。
4. 2週間毎に単語の小テストを行い、語彙力を高めるように指導しました。また、ペアやグループによる英語問題の回答の比較検討や諸アクティビティをとりいれて、学生同士で英語を使うように促しました。
5. クラスで、英文解釈(読解)の時間はあまり設けなかったのですが、「Reading力」「文法」に不安がある学生もいるため、一部だけでも少し英文解釈を後期は入れてみようと思います。
6. 前年度、多読の読み物はただ読むだけの作業となり、また簡単なものを選べばそれほど時間をかけず読み進めていくことができしまい、学生の達成感も読解力の向上もなかったように感じたため、毎週簡単にアウトプットできる時間を設けました。また、学期ごとに全体で読む字数の最低ラインを決めました。  
  
・教科書の内容がどちらかと言えば簡単(特に上位クラス)で、授業のために授業外学習をする必要がない学生が多くいるように感じたので、教科書以外の英語で書かれた読み物を読む時間を入れました。内容は学生の希望に合わせて教員が選びましたが、特に上位クラスでは読みたい内容の希望がとても多く出て、教科書より楽しかった、達成感を感じ、後期も同じようにやりたいと感想がありました。

7. 設問2の教室外学習にかけた時間として「週1時間以上2時間未満」との回答が4件みられた一方で、「全くしていない」との回答が1件、「週一時間未満」との回答も14件と一定数ありましたので、教室外での学習方法についてもう少し詳しい指導の必要性を感じます。教室外学習の方法について、より効果的な指導のあり方を模索してまいりたいと思います。
8. ・教科書の理解には、ワークシートを使っての内容要約（英語で。教科書から抜き出すだけでなく自分の言葉で）を行い、提出させてフィードバックを行っています。  
・授業開始時に必ず短時間のウォーミングアップ（教科書の単元の内容に関連するトピックについて、英語で1分スピーチをさせるなど）を行っています。頭を「英語モード」に切り替え、トピックについての自分が知っていることを読解に活かすことを目的としています。
9. テキストの予習シートとは、テキストの本文を書き込みしやすいようにスペースを空けてA3の紙に再現し、調べるべき単語は太字、代名詞が指しているものを考える部分は、訳す部分は下線、考えてくる部分は波線で示したものです。元の教科書は字が細かく書き込みがしにくいのではないが、予習をするようにと言われても何をしてよいのかわからないから予習をして来ないのではないだろうかと考え、この方式を本年度から実施したのですが、昨年度までに比べて学生たちはとてもよく予習をしてくるようになりました。予習シートは授業の最初に集め、行ってあるかどうかチェックし、加点了しました。この方式で、「何を予習してよいのかわからない」「予習をして来てくれない」という学生・講師の双方のストレスが軽減されました。
10. 今年度から始めたクラスであるため、多くのことを手探りで作り上げて行きながらの授業でした。半期のクラスで授業数が少なく、実際受験時期が12月と迫っているため、多くの授業時間を想定した輸入テキストを使用するよりも、過去問を行わないながらスキルを教えたほうが効果的だということはわかりました。今後は、スキルを教えるための自作の教材を充実させていきたいと考えています。
11. テキスト（Select Readings- Intermediate）にある読解の為のタスクをプリントにして授業中にそれを使いながら読解を深めるようにしました。
12. 単語テストのほか、内容の理解が確認できるミニテストを増やすことを考えています。
13. 「教室外学習の指導は、適切でしたか」の項目では全員が「非常にそう思う」と「ある程度そう思う」と回答していた一方、例年に比べ、実際の提出状況に多少差が見受けられました。毎月の確認を行うとともに、教室外学習（多読）に関連する教材を授業で取り上げるなどして、興味を持ってもらえるような工夫も必要であると感じています。
14. ・担当のクラスは、理解度に個人差も見受けられますので、詳細で丁寧な解説を心がけています。コメントに寄せられたように、速いと感じる学生もいるので、後期はコメントペーパーなどを活用し、さらにフィードバックを徹底していきます。  
・教室外学習では、多読の毎月の記録を課していますが、楽しんで取り組み、コメントも充実していますので、確認の際に一言添えるように心がけています。関連する小説などがあれば、紹介する

こともあります。毎月の記録で直接やりとりをしているような、そんな感覚を抱いてもらえれば、意欲にもつながるのではないかと考えています。

15. クラス内でコメントシートを渡し、質問や意見などを書いてもらおうと、クラスの個別の対応に役立つように思います。12月に行われる TOEFL ITP 試験を意識して、もっと英語のみで授業を進行して欲しいといった意見が、学生たちから増えているように認識しています。
16. ・グループでの学習時間を増やしたり、友達とコミュニケーションをとりながら、主体的に長文読解に取り組む環境を作ったりして工夫をしました。  
・学生の理解度を確認しながら、必要な場合は基礎的な文法の解説や単語の意味の確認を行いました。また授業内容に応じてペアやグループで意見を交換する時間を設けることで、学生一人一人の理解度を高める工夫をしました。
17. ブックリポートの発表の時間を少し設けようかと考えています。
18. 語彙、文法の知識を補いながら、丁寧に文章を読む必要がありそうだと、定期試験から感じました。課題の量を減らし、その分、テキストの文章にじっくりと取り組む時間を摂ろうと考えています。
19. TOEFL ITP を見据えて、また、読解力向上のため、授業中に初見のものを読むチャンスを増やそうと考えています。
20. 授業での説明には英語を使うこともありましたが、4限のアンケートコメントには日本語を使って欲しかったとありましたので、全体の様子やクラスのレベルに合わせて、2つの言語で理解を確認しながら進めたいと思います。
21. テキストに関連する英文の新聞記事、雑誌記事等を読んで自由に発言してもらっています。
22. 今後、学生による発表も取り入れたいと思っています。
23. 前期で各ロールのタスクを1つずつ体験した ARC を、後期は本格的に取り入れ、グループワークを通したより深い読解を促したいと思います。また、時間がかかる教科書の問題の答え合わせは、解答を画面に映すなど工夫をし、より多くの時間を解説とディスカッションに確保します。
24. ・テキストだけでなく、新聞記事と単語学習についても引き続き続けていきます。  
・クラスの意見交換の活発化と私語とのバランスについては、注意深く対応していきたいと思います。
25. ・読解力を発信力に結び付ける為に、アクティブラーニングを取り入れています。たとえば、読解を終えたユニットをチャンク・リーディングのワークシートで練習させ、覚えた意味のかたまりをつなげて、ペアでサマリーを言わせる活動などを行っています。  
・後期は e-learning を取り入れ、「TOEFL TEST 英単語学習システム」と「eBook」を使用させる予定です。学生に試験的にアクセスさせたところ、大変興味を示したので、e-learning を活用し、そ



の効果を見て行きたいと思います。

26. ・前期は文法の小テストを行いました。後期は各ユニットの最後にライティング課題を出すことにしました。(それをレッスンの最初に示すことで、教科書本文を読む動機づけを高めたいと思っています。)

・授業外で読んできた多読課題に対して、発問を2つ作成するのが毎回の課題でした。後期は発問を記入するシートを配布して、各学生の取り組みの把握に努めたいと思います。

27. 授業を欠席する学生はほとんどいませんでしたが、その欠席した学生が、休んだときの授業を自分で勉強して補っていなかったり、次回の予習もしていないときが見受けられたので、欠席者に自学学習を促したり、次回の授業の準備をきちんとするように促す必要を感じました。

# 「2018年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2018年12月10日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等： 第二外国語運営委員会  
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者： 白井 恵一  
検討会実施日 2018年10月24日  
出席者数 5名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答） 学生・WEB 開示

□初級で「確認テストをもっとやってほしかった」という要望がありました。定期試験以外に授業内で試験をやるのがよい意味でのプレッシャーとなり学習効果を高めることに繋がる可能性もありますが、逆にそれがマイナスのプレッシャーになり辛いという学生もいるため、あまり多くの回数を実施しない言語もありました。今後は様子を見ながら、学習効果を高めることに繋がる小テストの形式、内容、回数を考えて実施したいと考えています。

□選択科目（韓国語読解A）で、グループワークを毎回実施しましたが「知らない人とグループをつくるのが、話せなくて大変だったので、ある程度知っている人（隣や近くに座っている人）でグループを作ってほしい」という要望がありました。毎回なるべく違う人とグループになるよう、あえてメンバーを入れ替えてグループを作っていたので、それがやりにくかった面があったかもしれません。ただ知らない人とグループで作業をするというのは、今後社会に出てからも頻繁に経験する可能性があり、大学にいるうちにそのようなことに少しでも慣れてほしいという教員側の思いもあります。またコミュニケーションとしての外国語運用能力の向上に資するものでもあります。今後はアイスブレイクなども取り入れ、リラックスしてグループワークができるような工夫をしていきたいと思います。

□選択科目（韓国語読解A）で、「少し難しかったので単語をもう少し（読解の）プリントに載せてほしいと思いました」という意見、また似たようなものとして「先輩方が普通に読める文でも私にはとても難しかったので、レベル別でクラスを作ったり教材を用意してほしい」という要望がありました。これは本学の第2外国語の選択科目では、初級を終えたばかりの2年生から4年生までが履修するシステムになっているため、クラス内でのレベル差が大きいということが1つの原因として挙げられるかと思われます。そのため教材の作成、選定なども非常に難しい状況です。なるべく学習歴が浅い学生も、上級レベルの学生も一緒に学べるよう工夫をしているつもりですが、不十分な部分もあったかと思えます。今後は読解ではレベル別に教材を分ける、あるいは少し詳しい補助教材をつけるなど、さらに工夫をしていきたいと思えます。

・教科書に載っている単語に日本語の訳を付けておいてほしい、という要望がありました。日本語の単語と外国語の単語が一対一に対応することはありません。自分で辞書を引いて、文脈にふさわしい意味を見つけ出す習慣をつけることが語学力向上につながります。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

□初級では、「学習記録」を書くためのカードを配布し、各回の学習内容とコメント、質問を書いてもらうようにしていました。毎回必ず授業の最後に提出してもらい、コメントや質問には個別に返事や回答を書くと同時に、全体にフィードバックが必要と思われる内容については、次の授業の冒頭でフィードバックを行いました。フィードバックが分かりやすかった、というコメントもありましたので、

引き続き実施していきたいと思います（韓国語）。

・初級の文法項目について練習問題をもう少し多くしてほしいという要望がありました。教科書にある問題以外の練習を、授業時間中あるいは時間外に増やすようにしています。今後さらに充実していきます。

# 「2018年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2018年10月31日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等： 日本語科目運営委員会  
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者： 丸山 直子  
検討会実施日 2018年10月  
出席者数 7名（内、非常勤講師3名）  
非常勤講師を含むため、メーリングリストでの検討会を実施した。分析結果等は文面で提出してもらった。

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答） 学生・WEB 開示

- ・レポートの構成に関して、例を交えて教えてほしいという要望がありました。  
構成に関しては、「例えばこういう内容で書く場合」といった形で、具体的に説明したつもりでしたが、実際に書かれた論文等を提示して説明していきたいと思います。
- ・受講者は概ね満足していたようですが、一人だけ「配布された資料がありきたりのもので、あまり参考にならなかった。もう少し実践的な練習ができると思ったと思います」という記述がありました。  
文学的な文章表現の上達を期待していたのではないかと思います。客観的で根拠を明示した説得力のあるレポートを書くことを目指しました。この授業の目的を理解してもらえるよう努力する必要があると考えます。
- ・はじめに学生に「どのような日本語の表現力を向上したいか」を聞き、そのニーズに応じるかたちで授業を組み立てましたので、シラバスからややはずれた形になったと思います。が、学生のニーズに沿った授業を行いましたので、満足度は高かったようです。
- ・今回は少人数だったこともあり、コメントや添削が何度ももらえてよかった、話し合いがしやすかったというご意見を何人もの方からいただきました。（「こうしてほしい」という要望は特にありませんでした。）
- ・段階的に文章作成のプロセスや口頭発表の留意点を詳しく学ぶことができた、教員の添削や質問が丁寧で分かりやすかった、500字、1,000字、2,000字と経たことで自分の文章を比較することができた等、自由記述の全てが授業を好意的に評価するものでした。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

・お互いの書いたものを交換して読み、コメントし合うグループワークがとても良かったというご意見がありました。これについては今後も続けていきたいと思います。

引用の仕方など、文章を書く上での注意点を学べて良かったというご意見もありました。引用や書誌情報の書き方など、今後もきちんと扱っていくつもりです。

授業の人数が多くなった場合でも文章の添削やコメントをなるべくこまめに行えるよう、努力して

いきたいと思います。

・ 前は人数が少なくグループワークが出来なかったので、今回は積極的にグループワークを取り込みました。学生からの要望や感想にはありませんでしたが、グループワークでの議論がうまく機能する場合とそうでない場合があったように感じていますので、議論のテーマを絞って提示するように改善していきたいと思っています。

・ トピックを検討し、学生たちの興味関心をひくアクチュアルなものにすることを工夫したいと思います。グループワークを通して、多面的なモノの見方考え方をしる機会を増やしたいと思います。対話をとおして探究を深め、それを文章表現として工夫する授業デザインを考えたいと思います。

# 「2018 年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2018 年 11 月 22 日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等：	情報処理教育運営委員会
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者：	加藤 尚吾
検討会実施日	2018 年 11 月 22 日
出席者数	5 名（内、非常勤講師 0 名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答） 学生・WEB 開示

「抽象的な表現が少しわかりにくかった」というコメントがありました。これに対しては、具体的に説明するよう心がけるようにしたいと思います。また、「説明が速い部分があった」というコメントがありました。これについては、ゆっくり話すよう心がけたいと思います。「普段が Windows なので Mac は使いづらかった」というのがありますが、これは教員としては対処できませんが、来年度は情報処理教室のコンピュータが Windows になります。ポジティブなコメントとしては、どちらも Java プログラミングの授業で、「言語の中で一番わかりやすい授業だった」「Java について学べる機会を得られて良かった」というコメントがありました。C プログラミング I では、「とても分かりやすかったです。」というコメントがありました。今年度は市販のできるだけ分かりやすそうなテキストをベースにして行ったことがよかったと思われるので今後も同様に続けます。

また、リテラシ I については、「授業内に終わらないような課題が多かったので、課題の量を減らしてほしい」「最後に課題を課したまま作業させられるのは嫌でした」「授業内にだいたい終わる課題を出してもらえてありがたかった」というコメントがありました。教員は、課題の説明は授業内に十分行っており、授業をまじめに聞いていれば授業内にほぼ終わる量の課題だと考えています。授業の理解度には差があると思いますが、それだからこそ、授業内に終わらない場合は、（学習が足りないのですから）教室外学習として取り組むことを期待します。また、「授業の進むスピードがはやすぎて、おいつきませんでした」「早くしゃべっていて何を教えているのかよくわからなかった」「中学生でもできるようなことを今更やる必要を全く感じない」「とても勉強になった」「生きていくうえで為になることを学べて良かったと思う」「教材がいいのでパソコンの知識が前よりも身についた」「たのしかったです」というコメントがありました。説明はできるだけゆっくり、はっきり行うように心がけます。ただし、今年度は例年と比べて授業の進み具合は遅くスピードをこれ以上遅くすることは考えていません。中学生でもできるようなことというコメントがあるように、決して高度な内容を扱っているわけではありません。授業の内容が理解できない場合は、ぜひ積極的に質問に来てください。また、テキストの復習を十分行うことも、理解の助けになると思います。情報処理に関する知識は日進月歩ですので、簡単だと思う人も、慢心せず、常に新しい知識の習得を心がけてください。また、「エクセルができるようになった」「エクセルについてもっと詳しく学びたかった」というコメントがありました。エクセルについては、本年度より後期の必修科目であるリテラシ II で詳しく学ぶことができます。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

リテラシ I で教員の話し方がやや聞き取りにくいと感じていた方が数名いたようですので、今後はできるだけ早口にならずゆっくり説明を行うよう心がけたいと思います。また、前回の報告書では、「C プログラミング I においては理解度の項目が特に芳しくありませんでした」と報告しましたが、今回

は、「とても分かりやすかったです。」というコメントがありました。今年度は市販のできるだけ分かりやすそうなテキストをベースにして行ったことがよかったと思われるので今後も同様に続けます。

# 「2018年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2018年10月31日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等：	教職課程運営委員会
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者：	竹内 久顕
検討会実施日	2018年10月29日
出席者数	3名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB開示](#)

・「実践的な内容が多く毎回の授業が充実していた」「学校現場に立ったことのない私たちにはわからない事例や体験話がためになりました」といった記述が多く見られました。教職課程は、もともと教育実践と密接にかかわる課程なので、こうした声を学生から聞けるということは、教職課程科目の目的がうまく達成できているからだろうと思います。今後も、教育の現実と切り結ぶことのできる学習を深めることのできる授業を工夫します。

・「実際に活動に取り組むことで理解が深まった」「皆で話し合ったりして、お互いの意見を述べあったりする時間がよかった」など、いわゆるアクティブラーニング（AL）の手法に対する高評価の記述が見られました。教職課程科目には、特別活動論、教育相談、各教科教育法など、科目自体が主体的・対話的な要素を含んだものが多く、ALに親和的な授業が多いことにもよると考えられます。たとえば、「視覚障がい者の体験や車いす体験など自分で実際に感じる事ができた」（特別支援教育と社会福祉）といった記述は、科目自体が教育実践と密接に関連していることとALの手法を取り入れたということが相まって、高い授業効果を生み出すことが可能となったものと考えられます。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB開示](#)

・「1」でも述べたとおり、教職課程がもともと実践的であるということもあり、ALの手法を活用しやすい科目が多いです。したがって、授業内容の実践性やALの手法に対する高評価の感想は毎回見られます。こうした教職課程科目の特質を活かし、今後も工夫を継続していきたいところです。

・授業が難しいとの昨年度の評価を受けた科目では、当該授業内容をほぼ三分の二に縮小し、説明の時間を丁寧に取りました。そのためか、授業評価は以前より改善したようです。とはいうものの、当該科目の試験結果（得点）を過去と比較したところ、向上しているとは言えませんでした。ここには、授業評価と成績の関係をどう考えたらよいかという難しい問題がありそうです。授業が「わかった」というだけではなく、その成果が成績（試験）に表現されるにはどうすればよいのかという課題は、教職課程履修学生が将来教職に就いたときに直面する課題でもあり、ともに考えてみたい課題です。今後の工夫としては、授業の進度を犠牲にしても、本人が理解したと思っていることを表現させ、点検する時間を確保する必要があると考えています。その際に大事なことは、添削したペーパーを返却する際、なぜそのように添削されているのかを、各自の問題点に即して当人に分かるよう伝えることが必要だということでしょう。

・「授業を受講して、この授業が対象とする分野への問題意識や関心が深まりましたか」という設問項目に対して、あるクラスでは、44人中42人は「非常にそう思う」「ある程度そう思う」と回答していましたが、2人は「あまりそう思わない」と回答していました。しかし、同じクラスで、「総合的に判断して、あなたはこの授業に満足しましたか」という設問には、全員が「非常にそう思う」「ある程度そう思う」



と回答していました。「授業には満足できても、授業が対象とする分野への問題意識や関心が深まらない」という学生がわずかでもいるのは残念でした。今後は、授業を履修した後の興味関心をかき立てるような、長期的なビジョンで授業を準備するよう工夫します。

## 「2018 年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2018 年 10 月 31 日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等：	学芸員課程運営委員会
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者：	高橋 修
検討会実施日	2018 年 10 月 22 日
出席者数	4 名（内、非常勤講師 2 名）

### 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

実際に博物館で用いられている様々な実物資料が教材として用いられるため、授業内容を理解する上で役に立ったという回答が寄せられました。博物館は実物資料の宝庫であり、その魅力を知ることが学芸員の資質として重要であることから、今後も実物資料を活用した授業を展開します。

- 板書の漢字に間違いが見られるという指摘がありました。もし、明白な間違いや不明な点があれば、その都度、もしくは授業終了後に指摘するようしてください。授業終了後になされた指摘については、次回授業時にフィードバックをし、情報の共有化を図ります。指摘者の具体名が特定されないよう配慮しますので、遠慮なく申し出てください。

### 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

- 本学出身者が博物館等の生涯学習施設・文化施設に就職した事例が本年も見受けられました。将来のロールモデルとなり得るよう、彼女達の勤務内容について適宜、授業の中で取り上げ、実践的な知識・技能が身につく授業内容とします。なお、学芸員課程では 2017 年度から『教職・学芸員課程研究』を発刊し、本学卒業生の声や博物館関係の就職先等をはじめとした基礎的情報を公開しています。課程履修にあたり参考とってください。
- 講義形式の授業であっても対話型の形式やワークショップ的な内容を盛り込み、参加意識が高められるよう、引き続き同工夫の推進に努めます。

## 「2018年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2018年10月31日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等：	女性学研究所
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者：	唐澤 真弓
検討会実施日	2018年10月30日
出席者数	3名（内、非常勤講師0名）

### 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB開示](#)

\* 女性学・ジェンダー関係科目の性質上現状では個別アンケート結果の持ち寄りができないため、割愛させていただきます。

### 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB開示](#)

女性学・ジェンダー関係科目全体として、全学的な平均からくらべると、肯定的な評価が多くなっています。科目内での年次比較を考えると、今回は、設問3-13の11項目のうち、すべての項目で肯定的回答が90%を超えました。しかし、前回と比べると、設問3-13のすべての項目で肯定的回答が微減し、また、昨年度よりも95%を超えた項目が少なくなりました。今回は、肯定的回答が95%を超えた中で、さらに「非常にそう思う」という最も高い評価が50%を超えたものは、前回9項目であったのに対し、設問3(シラバスに基づく展開)、設問5(授業の準備・計画性)、設問6(授業の理解)、設問10(授業運営の適切性・公正性)に留まりました。女性学・ジェンダー関係科目に対する学生の満足度が低まったとも考えられますが、授業科目毎の分析ではないので、今後詳細な分析を行い、問題点、改善点を明らかにしていきます。残念ながら、設問2(教室外学習の時間)で「週1時間未満」、「全くしていない」という回答が85%となっていることは、他の科目よりも高く、教室外学習の指導を再点検し、より丁寧に行うように努めましたが、改善がみられませんでした。女性研の活動や蔵書などを、女性研の訪問などを通して、周知し、文献の紹介や精読をしていくことをもって広げていきたいと思えます。そして文献については、学部生向けの文献から専門性が高いものまで幅広く紹介するように努め、学生の関心にも対応した紹介をしたいと思えます。設問9(受講者の理解度の点検)についても9割を超える高い評価ながら、他の項目に比べると低い評価を与えた学生が多くなっている傾向も変わっていません。学生の理解度の点検をより丁寧に、科目担当者全員に周知していきたいと思えます。受講生の理解度の点検・配慮をより高めるよう工夫し、女性学・ジェンダー分野の問題がさらなる学習を促すように、より一層努めながら、女性学・ジェンダー関係科目のさらなる充実を図りたいと思えます。